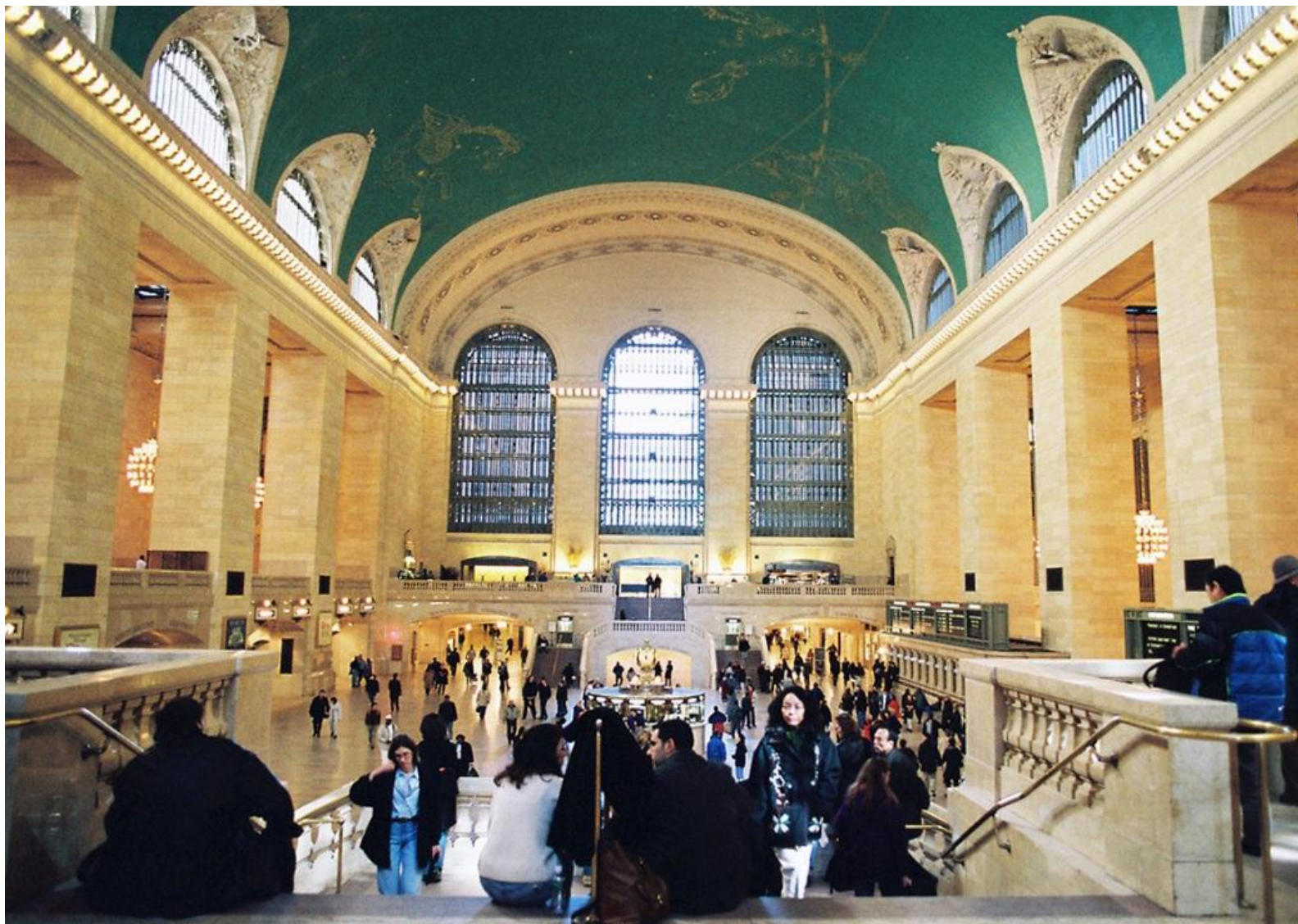


新宿ターミナル協議会(第1回)
2015.06.03

交通結節点のあるべき姿

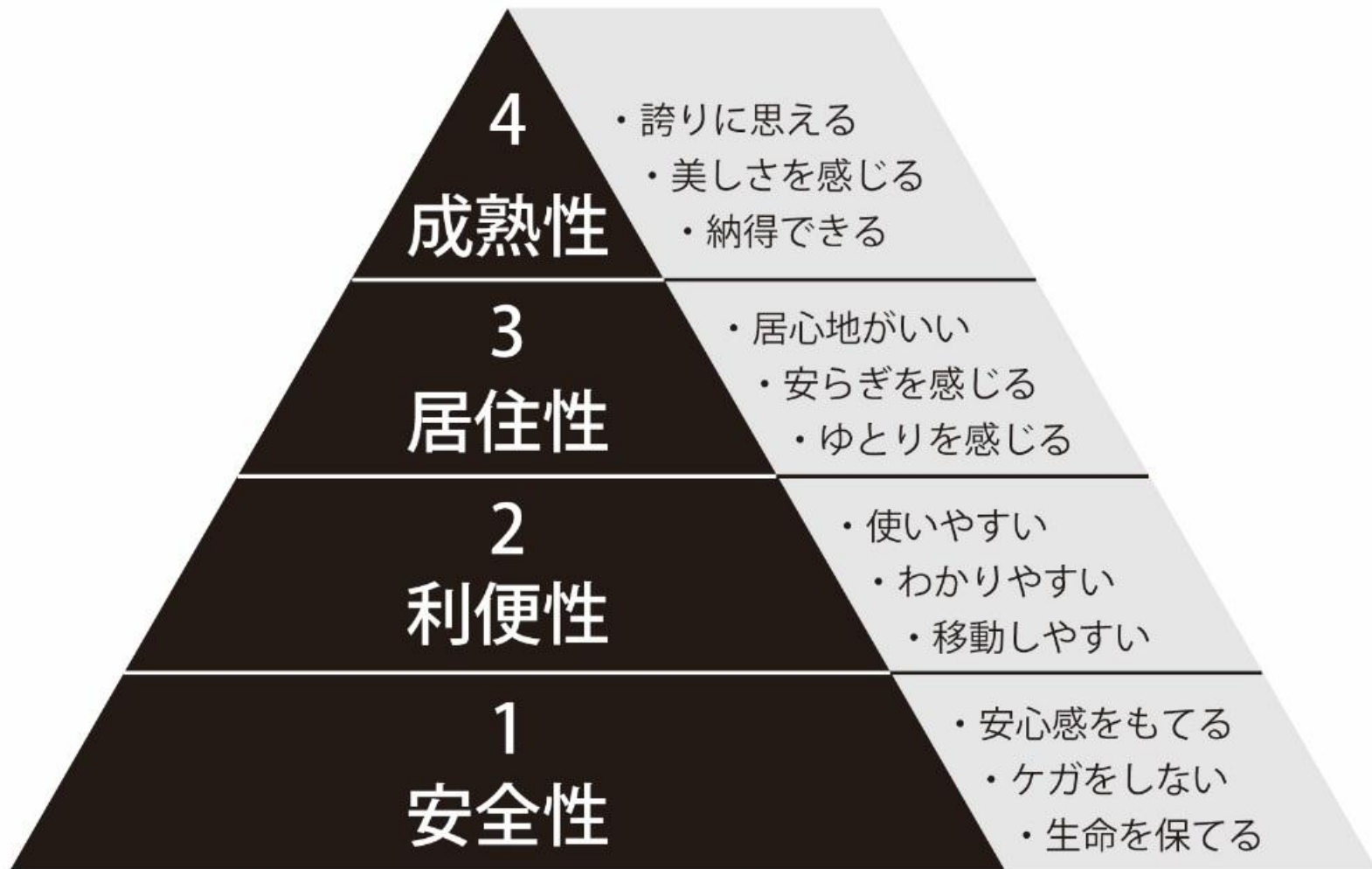
専門アドバイザー
赤瀬 達三

1.交通結節点の先進例 NYグランドセントラル駅



・この駅は人々に開かれている、人々が誇りに思っている

・首都圏の主要駅に求められる整備水準



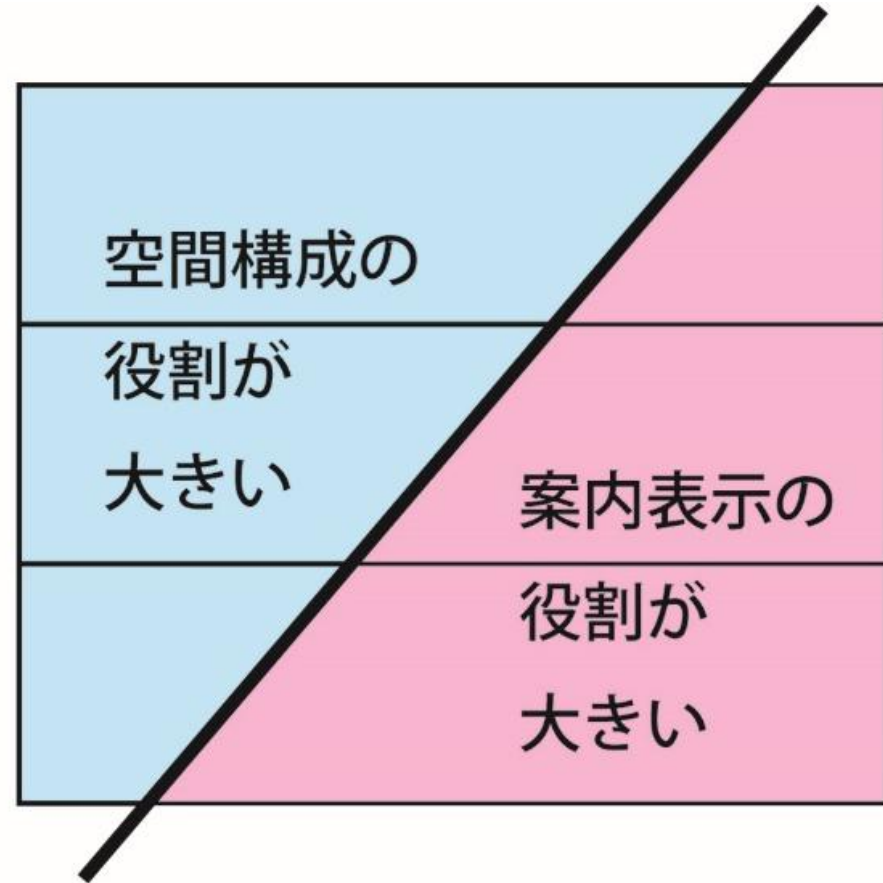
・整備主体がそう言うのではなく、人々からそう思われる

2.「空間自体のわかりやすさ」の重要性

[わかった！の内訳]

[役割分担の原則]

- ① 状況(全体像)がわかる
- ② 筋道(順序)がわかる
- ③ 意味(ルール)がわかる



・「空間構成」と「案内表示」の両面から、対応が必要

①見晴らしをつくると、状況がわかる



パリ/シャルル・ド・ゴール空港第2TGV駅

②見通しをつくと、筋道がわかる

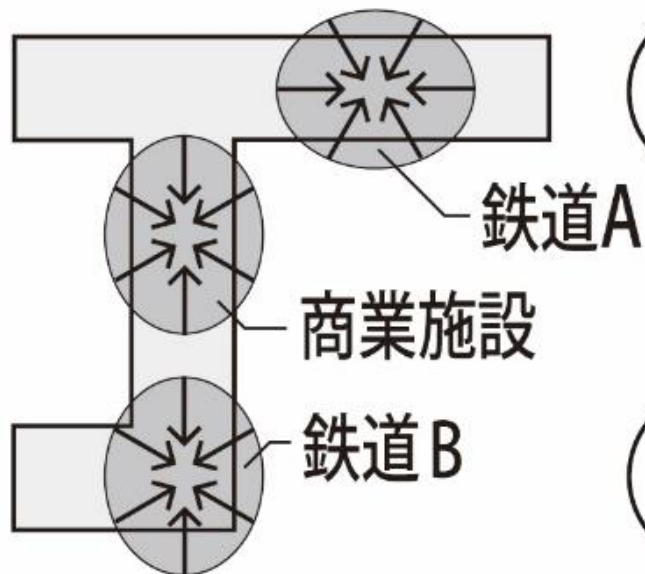


ベルリン/ベルリン中央駅

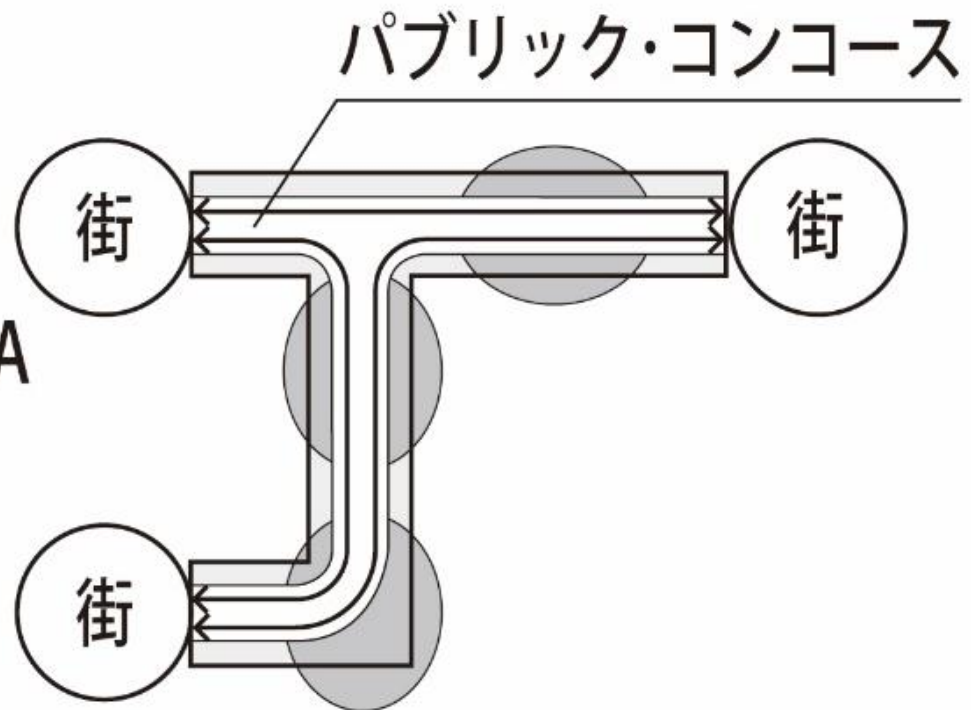
3.「わかりやすい案内表示」の方策

①「部分から全体へ」、案内方針を転換する

[これまで]

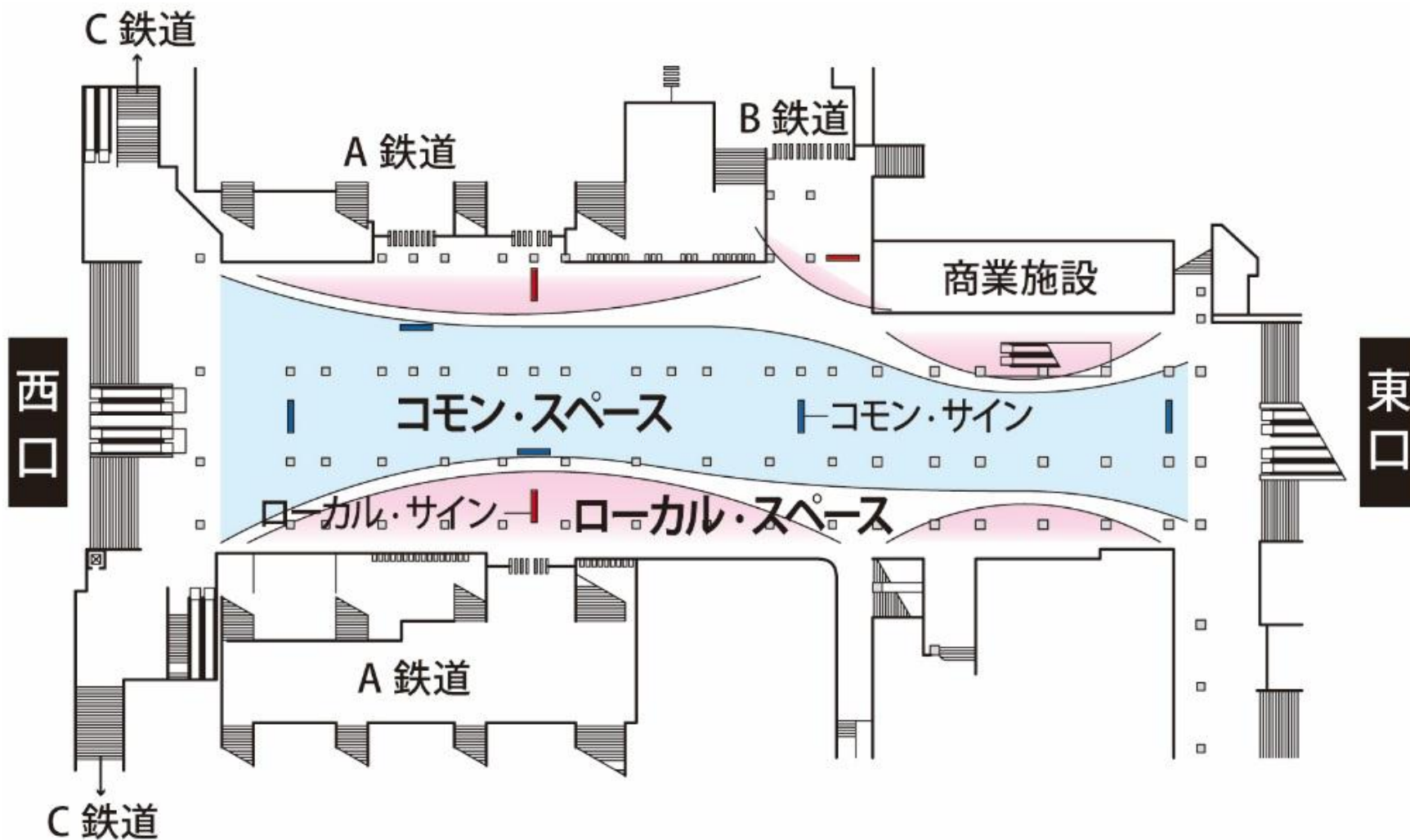


[これから]



- ・人々は管理区分を越えて移動する
- ・情報は空間に制約されない

参考：横浜駅コモンサイン計画のコンセプト



・コモンスペースのサインは、みんなで整備する

・結果、改札口前で、乗り換え・出口の方向がすぐにわかる

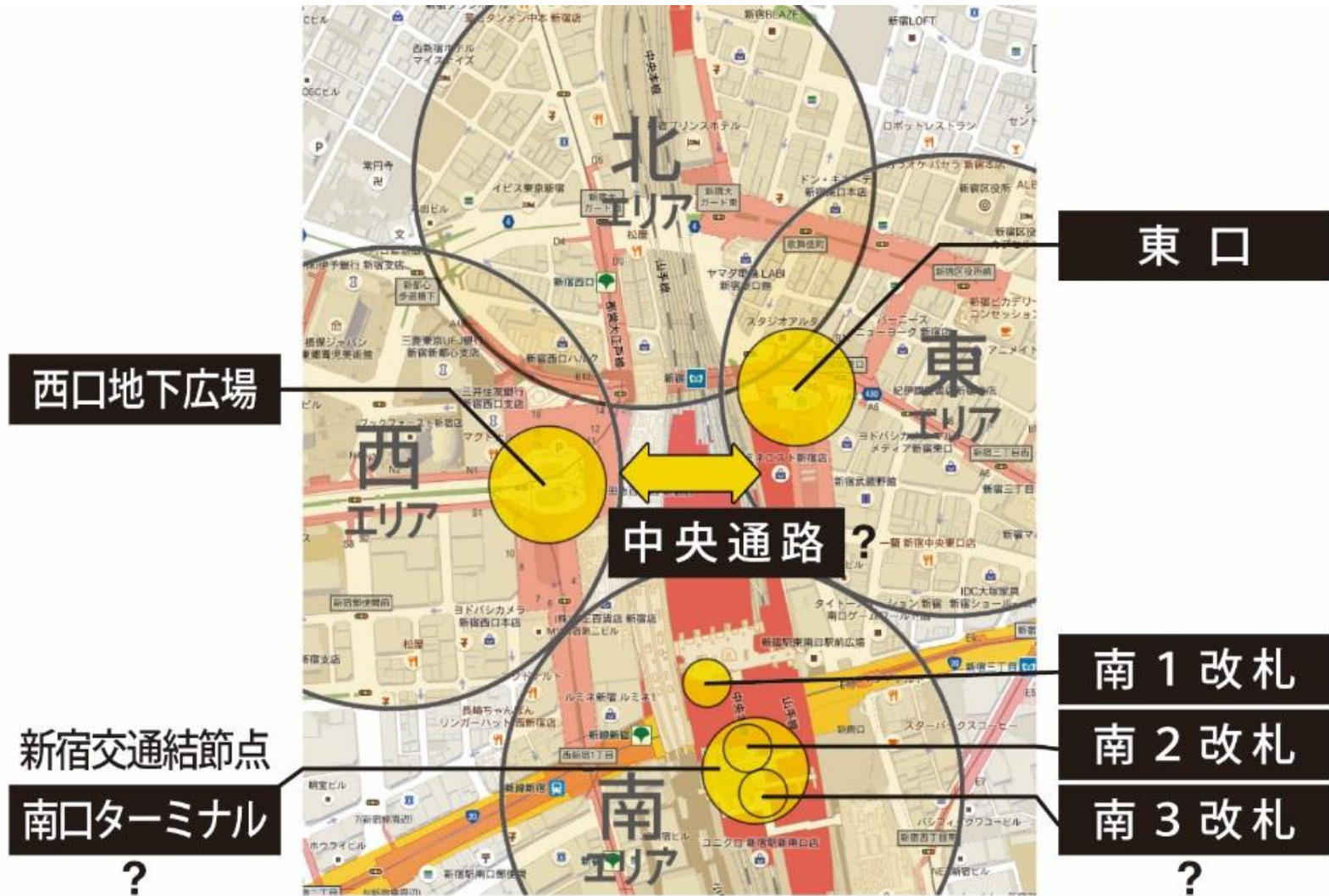


②できるだけシンプルに表現する



・字数・情報量を少なくし、シンボルは遠くから迎れるように

③ 基点と座標軸を示す名称を、再整理する



- ・ 駅の構造変化に伴い、
シンプルで迷わないオリエンテーション・コードも、要再検討 11

④誰にでもわかる乗り換えシンボルを、工夫する

(ユニバーサル・コードの導入)

[これまで]この表記で、日・英・中・韓以外の言語圏の人に、わかる？



[これから]万国共通の数字(既定の都市計画路線番号)ならわかる！



- ・都営新宿線と京王新線が、都市計画10号線として、相互直通運転していることまで、伝える